

明治時代からの開拓の地 「那須野が原」

那須地域に広がる台地「那須野が原」。
本州最大級の原野が広がっていたこの地に、
農場がつくられたのは、明治時代になってから。
農業に必要な水がとぼしかった那須野が原は、
人々の努力で原野が開拓され、
発展していったのです。

那須野が原って どんなところ？

栃木県の北部に位置する那須野が原。
日本遺産では、那須地域のうち、那須塩原市、
大田原市、矢板市、那須町の4つの市町を
那須野が原としています。
中央を蛇尾川と熊川が流れ、
北東に那珂川、南西に
箒川が流れています。



緑色の部分が那須地域、
その中の茶色い部分が那
須野が原。



1 最大の扇状地

扇状地とは、川のはたらきによって、山から運ばれてきた土砂がおうぎ状に積もった地形です。那須野が原は、複数の扇状地が合わさってきた、日本最大級の「複合扇状地」なのです。



扇状地のしくみ
土砂が積もった地層は谷の入口で最も厚く、谷から離れるにしたがい薄くなる。

2 広大な原野があった

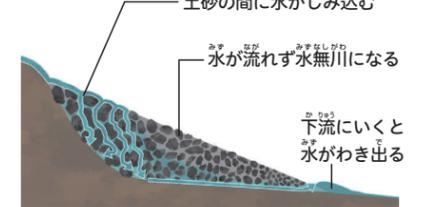
その昔、那須野が原一帯には、那須西原と那須東原という2つの広い原野がありました。原野にはカヤなどが生い茂り、家の屋根（茅ぶき屋根）の材料や馬のエサなどとして大切に活用されていました。



明治時代の原野を思わせるカヤ原の風景。生活に使うためのカヤをかる場所を「カヤ場」という。

3 水のない「蛇尾川」

川なのに水が流れていない蛇尾川は、那須野が原の象徴的な風景のひとつです。水が地下にしみ込んでしまうために水無川となり、ふだんは川底の石がごろごろと現れています。大雨が降ったときなどには地表に水が流れます。



蛇尾川の上流は土砂が厚く積もっているため、水がしみ込み地表には水が流れない。下流にいくにしたがって土砂が少なくなるため、水がわき出して地表に水が流れる。

水がないときの蛇尾川



水があるときの蛇尾川



日本最大級の 原野開拓と「明治貴族」

明治時代は、日本に西洋文化が入ってきて、国が発展していった時代。国を豊かにする、さまざまな産業がさかんになりました。そんな時代に、本州最大級の原野が広がっていた那須野が原の、農場としての利用が注目されました。そして、明治の貴族階級の人々である華族や地元の名士によって、この広い原野が切り開かれていったのです。



▶那須野が原を開拓した華族の原動力のひとつには、広い領地をもっていた西洋の貴族に対するあこがれがあった。



▲那須野が原の中にたたずむ松方別邸。